

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の3年目)

1. 研究課題

近代日本の宗教と文化

Modern Japan's Religion and Culture

2. 研究代表者氏名

高木 博志

TAKAGI, Hiroshi

3. 研究期間

2022年4月-2025年3月(3年目)

4. 研究目的

近代日本の宗教と文化を考えたい。本研究で扱う宗教とは、仏教、キリスト教、国家神道、教派神道（金光教・黒住教・天理教・大本教）、民俗世界の信仰などである。そして文化とは、美術・工芸、音楽、文学、映画・芸能などにとどまらず、それらが政治、社会、教育、生活とも交差する、広義の「文化」とする。その上で、宗教と文化の問題を深めたい。たとえば「賊軍」士族の賛美歌、国家神道と教育儀礼や民俗文化、白樺派や柳宗悦やブレイクとキリスト教、京都画壇と本願寺など、課題は豊富である。また市井の庶民の信仰に迫るためにも、民衆史の方法や、宗教における史料論という課題を問いたい。最後に近代天皇制にも「宗教と文化」から迫りたい。

I wish to reflect on modern Japan's religion and culture. "Religion" here refers to Buddhism, Christianity, state Shinto, sect Shinto (Konkōkyō, Kurozumikyō, Tenrikyō, Ōmotokyō), and the world of popular beliefs. "Culture" refers not merely to arts, crafts, music, literature, film, and entertainment, but to their engagement with politics, society, education and life. This is culture in the broadest sense. And I hope to complicate the problem of religion and culture. The issues here are many and diverse: hymns by samurai on the losing side in the civil war; state Shinto and educational ceremonies and folk culture; the Shirakaba school, Yanagi Sōetsu, Blake and Christianity; and the world of Kyoto painting and Honganji inter alia. In order to approach the beliefs of the people at large, I adopt the methods of people's history and of religious history. Finally, I plan to use the "religion and culture" angle to get at the modern emperor system.

5. 本年度の研究実施状況

本年度は13回の共同研究会をもち、25人の報告者を得た。9月20～21日は本康宏史氏の案内で尾山神社・金沢城等の巡見をし、尾山神社と祭祀・顕彰などの文化を考えた。そのほか泉涌寺や祇園でのフィールドワークも行い共同研究班のテーマを深めた。『近代日本の宗教と文化』（思文閣出版、2026年刊行予定、21本の論文）、『人文学報一特集号：近代日本の宗教と文化』（2026年2月刊行予定、7本の論考予定）に向けて執筆依頼を終え、共同研究のまとめに入っている。今年度扱ったテーマは、金光教の遊廓布教、禊教の教組劇、皇室儀礼における牛車の役割、新宗教における堕胎と映画、泉涌寺をめぐる皇室の信仰と文化、祇園町の年中行事と宗教、陵墓に見る家族国家観の反映、東北地方の天皇行幸と音楽・キリスト教、製糸業と宗教、昭和大礼と記録映画・維新顕彰など、いずれも宗教が政治、社会、教育、生活とも交差する、広義の「文化」を問題とした。

6. 本年度の研究実施内容

- 2024.4.6 金光教と花街：石清水教会文書の紹介 発表者 高木博志 京都大学人文科学研究所嵯峨野・広沢池畔、沢乃家、佐野藤右衛門桜園巡見
- 2024.5.25 禁裏御車童子と牛車の近代：賀茂祭と大喪をめぐる 発表者 村上紀夫 奈良大学 明治期歌舞伎における教祖劇の成立：教派神道・禊教と天理教の例を手掛かりに コメントーター 金智慧 京都大学人文科学研究所
- 2024.6.29 昭和30年代日本における「胎児」の誕生—宗教と映像メディア 発表者 木下千花 京都大学 上映『人工流産の障害』（ファースト教育映画社、1959年）、脚本・演出：下村健二、監督：石垣純二、於神戸映画資料館
- 2024.8.3 嘉永・安政期の修陵 発表者 桑原優子 泉涌寺 杉孫七郎と泉涌寺 発表者 齊藤紅葉 国土館大学
- 2024.8.31 武道と宗教の視点から捉える武徳殿建設 発表者 中川理 京都工芸繊維大学 祇園町の年中行事と宗教 発表者 岡田万里子 桜美林大学 祇園・宮川町散策：案内、岡田万里子・中川理
- 2024.9.20～21 創建神社の祭祀と文化 発表者 本康宏史 金沢星稜大学 尾山神社、金沢城、宇多須神社（元の卯辰八幡宮）、ひがし茶屋街のフィールドワーク、案内 本康宏史
- 2024.10.05 「陵墓」の近代：皇霊・家族・夫婦 発表者 今尾文昭 関西大学 明治天皇奥羽巡幸と「唱歌」 発表者 北原かな子 青森中央学院大学看護学部
- 2024.11.23 東本願寺旧蔵の品々と二度の売立について 発表者 國賀由美子 大谷大学 特別展「美と用の煌めき：東本願寺旧蔵とゆかりの品々」観覧
- 2024.12.22 京都染織関連業者の祀りと祭り：宮崎友禅顕彰と染織祭を中心に 発表者 北野裕子 龍谷大学 浅沼喜実と民藝運動 発表者 福家崇洋 京都大学人文科学研究所

- 2025.1.13 高山彦九郎像の建立と日蓮宗僧侶・明渡日正 発表者 玉城玲子 向日市文化資料館 巡見：石塔寺一長岡宮大極殿跡一向日神社一向日市文化資料館 記録映画「高山彦九郎銅像除幕式」昭和3年ほか上映
- 2025.1.25 蚕都綾部の宗教と民俗文化：郡是製絲株式会社と養蚕農家の結節 発表者 青江智洋 京都府立丹後郷土資料館 国家神道の現代史、あるいは身体感覚としての天皇制 発表者 駒込武 京都大学
- 2025.2 開催予定（発表者、林潔・田中直子・松川綾子）
- 2025.3 開催予定 シンポジウム「近現代京都、周縁からの創造」（京大時計台記念館・国際交流ホールⅠ）、発表者、高木博志・谷川穰・田中智子・福家崇洋

7. 共同研究会に関連した公表実績

共同研究における民衆史や歴史の周縁性といった問題意識を現すものとして、2025年3月20日 シンポジウム「近現代京都、周縁からの創造」（京大時計台記念館・国際交流ホールⅠ）を開催し共同研究のまとめとしたい。報告は、高木博志「周縁の文化史—学問・芸能・遊廓」・谷川穰「維新と豚—京都の場合」・田中智子「京の女子教育史—「高尚」な学びの射程」・福家崇洋「河上肇と転向問題」となる。

8. 研究班員

所内

高木博志、福家崇洋、金智慧

学内

谷川穰(文学研究科)、田中智子(教育学研究科)、木下千花(人間環境学研究科)、駒込武(教育学研究科)、林潔

学外

並木誠士(京都工芸繊維大学美術工芸資料館)、羽賀祥二(名古屋大学)、福島栄寿(大谷大学文学部歴史学科)、齊藤紅葉(国土館大学)、幡鎌一弘(天理大学文学部)、中川理(神戸女子大学)、土田眞紀(同志社大学文学部)、今尾文昭(関西大学文学部)、北野裕子(龍谷大学経済学部)、本康宏史(金沢星稜大学 経済学部)、北原かな子(青森中央学院大学看護学部)、國賀由美子(大谷大学文学部歴史学科)、木立雅朗(立命館大学文学部)、村上忠喜(京都産業大学文化学部)、村上紀夫(奈良大学文学部)、紙屋牧子(玉川大学芸術学部)、樋浦郷子(国立歴史民俗博物館研究部)、ジョン・ブリー John Breen(国際日本文化研究センター)、青江智洋(京都府立丹後郷土資料館)、玉城玲子(向日市文化資料館)、松川綾子(奈良県立美術館)、富田美香(国立映画アーカイブ)、兒山真生(金光図書館)、兒山陽子(金光図書館)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
人文研所属 (内女性)	1	4 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	49 (6)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
京大内 (人文研を除く) (内女性)	3	7 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	39 (24)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (15)
国立大学 (内女性)	2	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学 (内女性)	13	13 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	48 (28)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人 (内女性)	2	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	4	4 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関 (内女性)	1	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他 ※ (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	26	34 (16)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	168 (75)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	20 (15)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	4		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	5		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	歴史評論 888	1	2024.4	近代日本の国葬にみる「未亡人」像	胡安美
2	京都大学大学院人間・環境学研究科編『学問で平和はつくれるか?』京都大学学術出版会	1	2024.6	スターチャイルド考：胎児をめぐる映像文化	木下千花
3	人文學報 122	1	2024.6	戦後歴史学の明暗 - 渡部徹と社会・労働運動史研究--	福家崇洋
4	人文學報 122	1	2024.6	杉孫七郎と泉涌寺 - 宮中との関りを通して--	齊藤紅葉

5	洛北史学 26	1	2024.6	無形民俗文化財の保護と活用：文化財保護法改正を受けて	村上忠喜
6	広瀬和雄編『日本考古学の論点』雄山閣	1	2024.6	古墳被葬者論	今尾文昭
7	マルタン・ノゲラ・ラモス編 平岡 隆二 編『関西の隠れキリシタン発見ー茨木山間部の信仰と遺物を追って』人文書院	1	2025.2	大正期の文化・学術と茨木キリシタン遺物の発見	高木博志

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名	国際共著
1	『統治される大学：知の囲い込みと民主主義の解体』	駒込武	2024.10	地平社	
2	『染織の都 京都の挑戦：革新と伝統』	北野裕子	2025.1	吉川弘文館	

12. 博士学位を取得した学生の数

なし

13. 研究成果公表計画および今後の展開等

共同研究のまとめとして『近代日本の宗教と文化』（思文閣出版、2026 年刊行予定、21 本の論文）、『人文学報ー特集号：近代日本の宗教と文化』（2026 年 2 月刊行予定、7 本の論考予定）。